



2026 年 1 月 21 日(水) SVL 理事会後メディアレク

■埼玉上尾メディックス(以下、埼玉上尾)への制裁について(大河チェアマンより)

2025-26 シーズン、「埼玉県内の会場でリーグ戦のホームゲーム数 8 割以上を開催する」「平均入場者入場可能数を 3000 名以上にする」という基準を(クラブ SV ライセンス交付のために)充足してもらわなければいけなかったところ、それを証明する書類が未提出でした。(2025 年)11 月 30 日締め切りに対し、(2026 年)1 月 13 日にようやく最後の書類が出揃いました。(締め切りである)11 月 30 日時点では、埼玉県内の会場から(ホームゲームを開催することを)証明をする書類は 1 件も届いていない、という状態でもありました。これは規則に抵触した行為(2)不誠実な対応(適切な報連相なし)にもある通り、適切な報告、連絡、相談がない、不誠実な対応ということで、罰金と人員の停職という制裁を決議しました。

しかも書類の未提出・遅延はこれで 3 度目、3 年連続ですので、今後も期限の無視や不誠実な対応が続くようであればより重い制裁を科すということも決議しました。例えば 20 個ある書類の中の 1 個か 2 個が、理由があって数日遅れますとか、そういうことを事前にご連絡いただくのであれば仕方がないところもありますが、こちらからの連絡にも真摯に対応されない状況ということで、これが続く場合は実行委員の変更を求める可能性やライセンスの不交付となる可能性があるということです。

ライセンス審査にあたって第三者機関であるライセンス諮問委員の方々(弁護士、会計士、有識者)に見解を求めても、非常に厳しいニュアンスの回答もあり、今日の理事会でも厳しい意見が示されました。

■Q&A

Q. 埼玉上尾の制裁について、シンプルに人が足りなくて回っていないからこういう状態になったのか、停職となった個人の問題なのか。

A. もともとは非常にスタッフが少ないという事情があり、1・2 年目のライセンス判定において注意を促したりけん責を科した時に組織の立て直しを付記して改善をお願いしています。そういう中で数名のスタッフ採用はされていますが、ガバナンスを効かせて全体を統括していくという力は弱いと言わざるを得ない。

「人員の停職」もクラブに対する制裁であって、個人に対する制裁とは考えていないということです。

以上